



青木 武明 議員

問 五霞町の将来像について

答 若者の定住化につながるまちにしたい

問 今、五霞町は第5次総合計画、後期計画の策定中であります。そうした中で、町においては待望の圏央道が来春、境古河インターから久喜白岡ジャンクションまでの供用開始になります。併せて4号バイパスの複車線化もされ、五霞町も大きく進展が見込まれます。圏央道IC周辺開発が今後実施され、それに併せてどのようなまちづくりをされていくのか伺います。

町長 これまでと同様に商業、工業、流通などの複合的な企業誘致を進める中で、この大型商業施設につきましては、核となる魅力ある利便性と若者の定住化につながるような施設の誘致を目指して、現在、県をはじめ関係機関等との連携を図りながら、期待に応えるべく鋭意進めているところです。

問 日本の人口減少が急速に進んでおります。政府がやっとこの人口減少問題にいろいろな施策を打ち出してきておりますが、五霞町においても同様の取り組みが、町の人口の過去10か年の推移と今後の見通しについて伺います。

政策財務課長 平成16年から平成25年までの10か年でありますが、いずれも出生数より死亡者数が多く自然減の状態が続いております。このため平成16年に1万53人だった常住人口が毎年減少し続

け、平成25年には9,178人となっております。今後の見通しは将来推計人口によりますが、平成27年の8,945人から10年後の平成37年には8,057人と、10年間で888人が減少するという推計がなされております。

問 各町の人口減少の原因となっております若者の定住化促進を、今後どう進めていかれるのか伺います。

政策財務課長 町内の若い人材を大切に育んでいくことなど、町から若者

の流出を防ぐような施策も重要です。そのためには若者の意見を聴く場や話し合う場など進め方についても工夫するとともに、この町が好きだと感じてもらえるよう一緒にまちづくりに参加していただけるような仕組みを作っていく必要があります。

問 中学生に実施したアンケート調査の結果から、将来、町を出たいという生徒の数値が大きいことは非常に残念に思います。そうした結果をどう受け止めておられるか伺います。

町長 昨年、野田市、境町、五霞町、3市町で川のまちネットワークを立ち上げました。そういう

中で、できましたら五霞町側にも観光の拠点を作りたいと考えております。

政策財務課長 「あなたは10年後、五霞町に生活していると思えますか。」という設問に、他の市町村で生活をしているが18・4%を占め、五霞町で生活をしているが17・9%で、次代を担っていく中学生の2割が、他の市町村に出たいという結果となっております。そうした結果を踏まえ、この町が好きだと感じてもらうよう、今後取り組みを進める必要があると認識しております。



問 五霞町の観光について

答 観光の拠点を作りたい

問 五霞町は首都圏50キロ圏内に位置しております。道の駅ごかには年間200万人とも言われる来客数があります。それらを考えたときに、道の駅から中の島公園までのルート、強化堤防のな